



大統領
格蘭氏傳
第二編

假名垣魯文和解

鮮齋永濯画

助文屋岡辻人版出

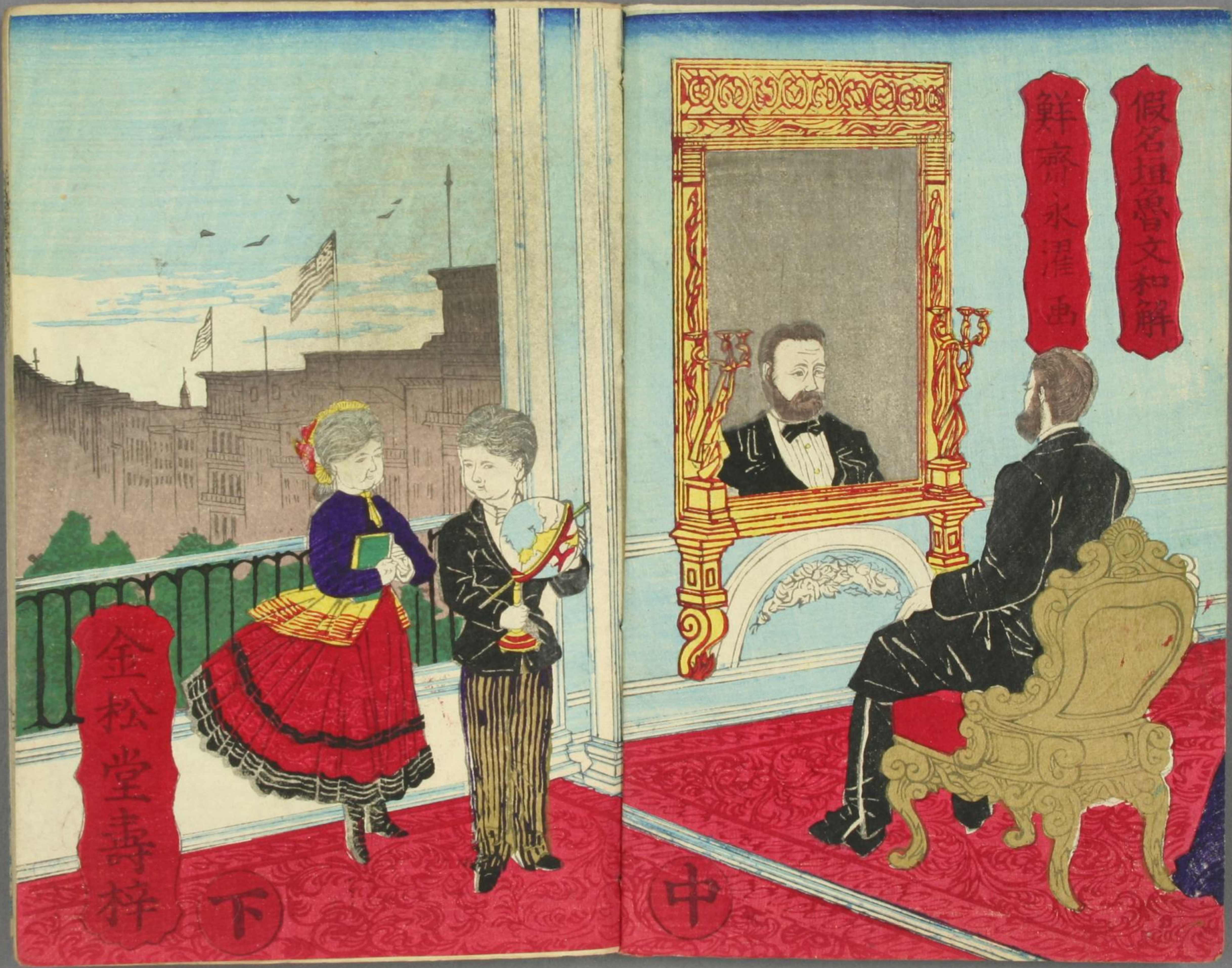




格蘭氏傳倭文賞
第二篇

上

48-8005



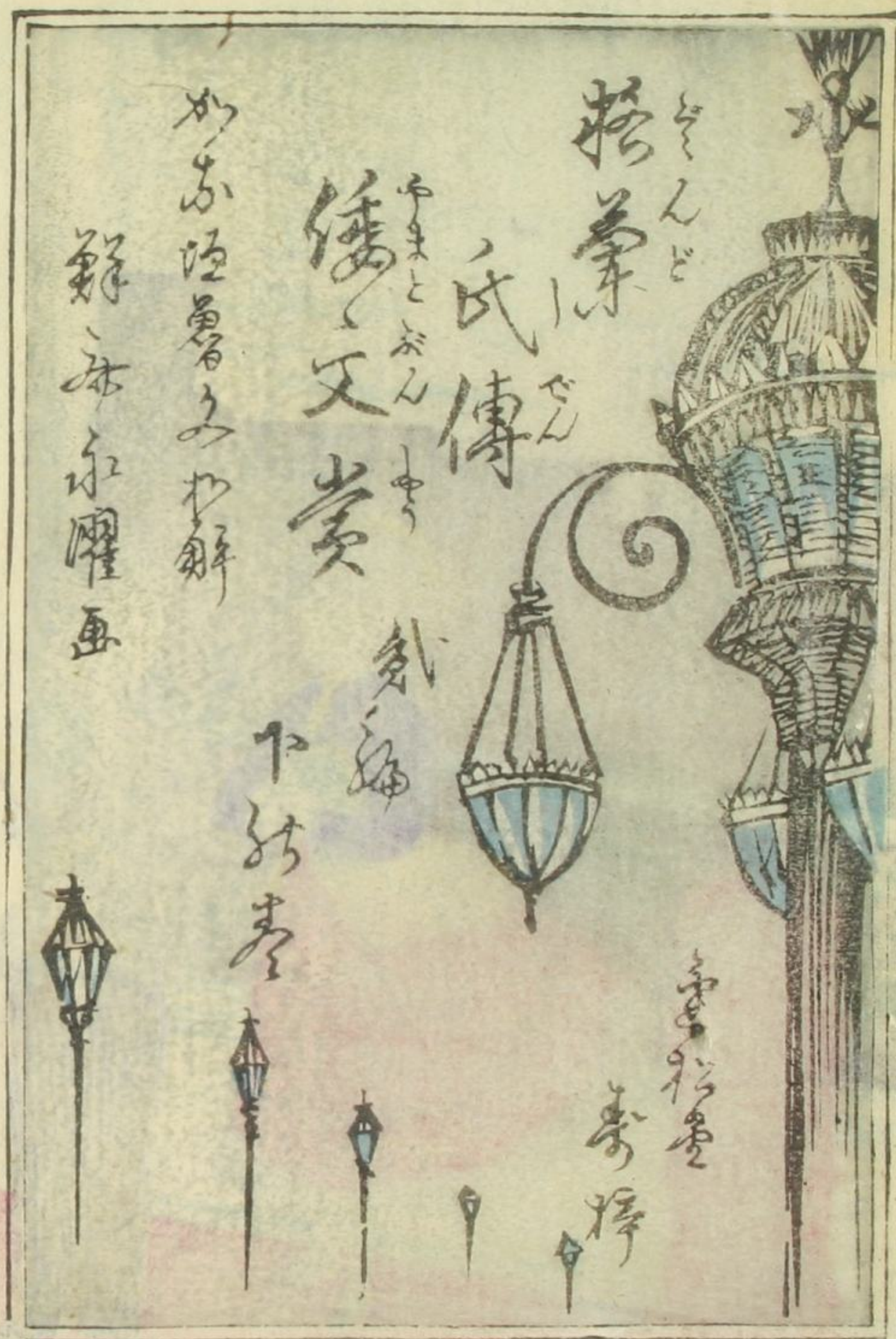
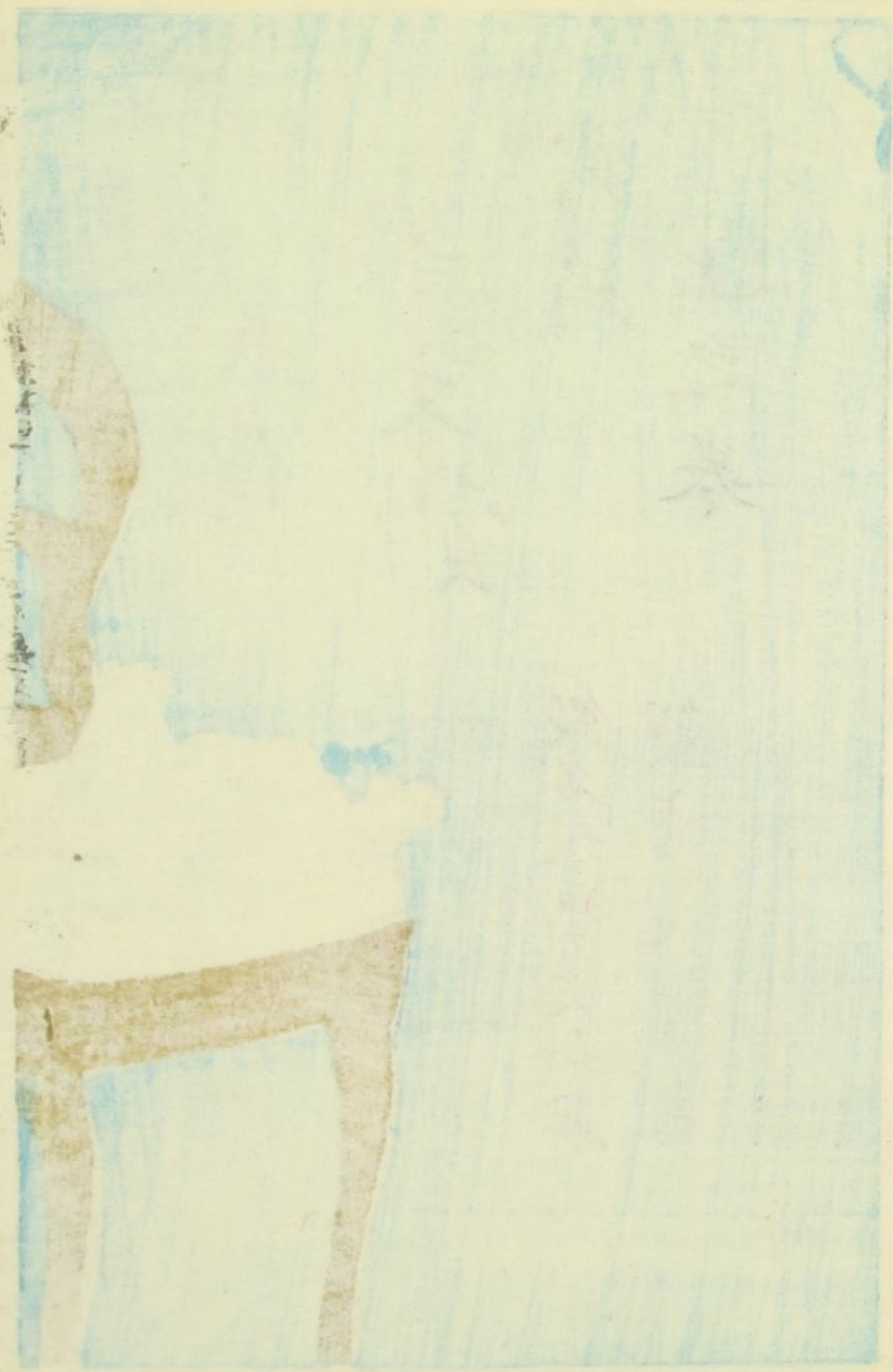
假名垣魯文和解

鮮齋永濯画

金松堂壽梓

下

中



格蘭氏傳

倭文賞

戴編

上之卷



假名垣曾文和解
鮮奇永濯畫
金松堂壽梓

膾炙の在る所ろ群蟻をこみ集り正義のそする所ろ徳望
隨つて歸きて互ある哉米國前大統領克蘭度君の身剪
小の下より掘起り其國と波瀾の倒るる支へ武功
以て名と顯し文徳と以て望とを収め其威徳と勲績と終
始一を保ちし所謂功成名遂て身退くの高士と稱べし
今や君の我帝國大日本よ來遊せざるを辱けあふし民庶
厚く君と款待しと措ざるの實は明治十二年の夏七月
あり茲よ君の徳望と欽慕の餘り我社翁が例の強
記纂纂炎暑と顧るを和解の筆記と聊う助け文華
よ一葉と添ゆる而已

假名讀社中

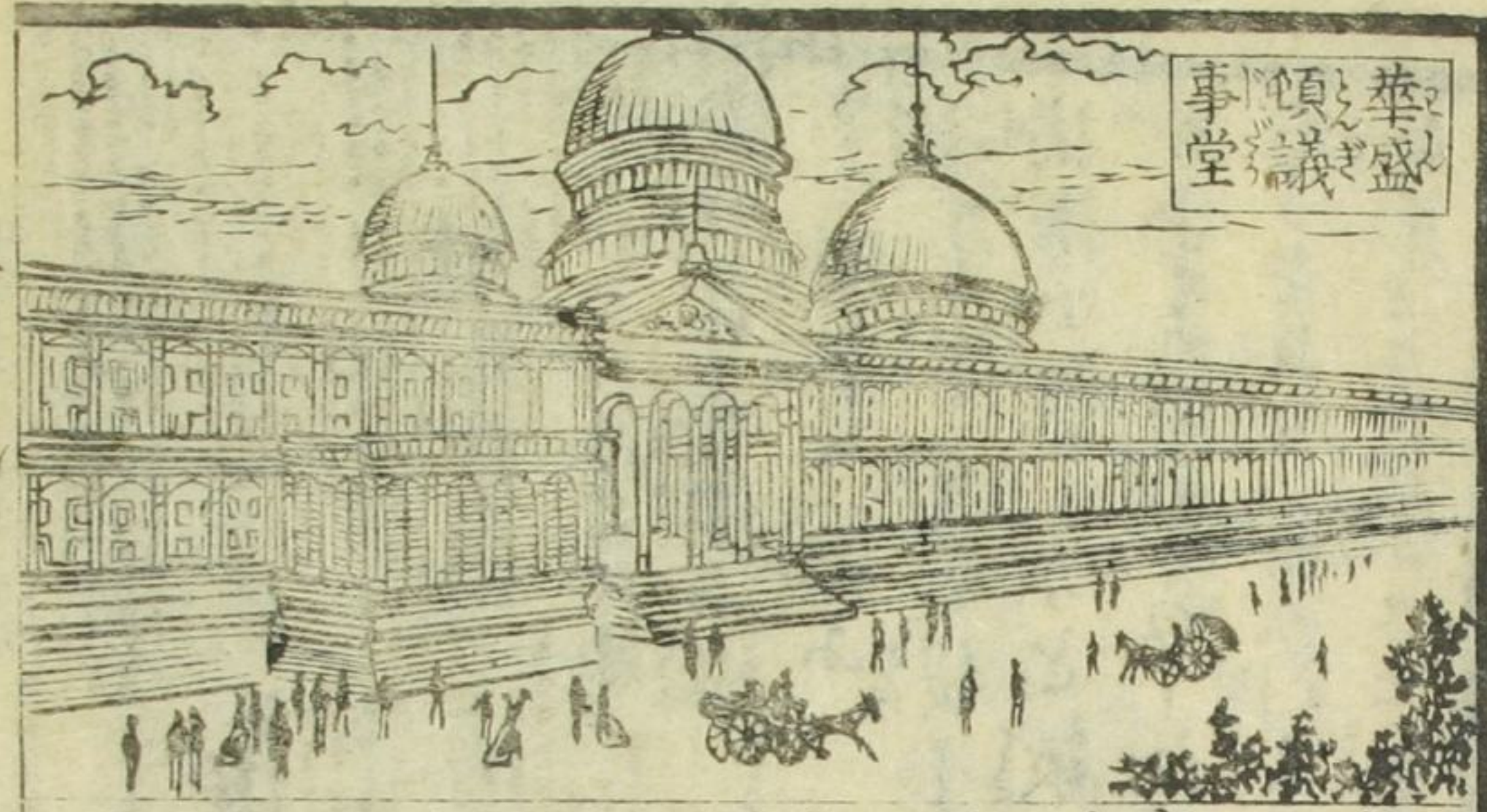
若菜貞爾



又右側六傳三



格蘭氏傳二上



華盛頓議事堂

格蘭氏傳倭文賞二編上之卷

大日本

假名垣魯文和解

備もグランド島の進軍ハ六月一日南軍と討
 破りて東に進ミジャクソンより出向ふ敵と
 乃あひて再び北と八方小退崩し至勝ひ
 みてジャクソン小押切に月十日日遂に此
 地と陥入に敵と粉のどく打ちし心の
 怪小勝と得てその月ハ「ミシッポ」河を
 引揚り翌十六日再び南軍と進ミラッ
 と千ヤンピオンピルの地を南軍の將と交
 へーペンホルトンの兵と破り翌十七日黒河橋
 小陣ととり又も南軍と破りて南軍のつた



本上原上作二

總踊り音頭唱歌

紅糸の指のたれさうと袖と垣根のあと
 出てよ一寸身とばさうさだの霜のいの
 しろさうとと積る積る雪の深さる雪と
 廻らまゝのなやヨレヨレくよんやサ

日替唄

衆なる星の空をきて伸み長者の
 一ツ星牛とひと星銀瓶の上と下との
 隔てなく睦むやと控添くる
 好よゆらめく旗のなや
 ヨレくヨレくよんやサ

つき勢ひ折挫けせきも勇あるペンホル
 トンもうちつぎきの敵軍ふ心あらむも
 おりくと打退き十八日ぬビツグスホル
 まで退つめら城のうちみぞ
 外籠よりまら敵の
 籠城をや堡壘ふ迫
 して勝敗と一たふ
 決せよ者どもと烈しく
 指揮を傳くうと敵いつがま
 出あおねべ目さぬ一た勝利ゆ
 ありぞ此月のあひひはひた揚て
 休戦とこそ成みは是是より此期より

▲ホルトンも
 今いそ
 走きせり
 其將
 士二方
 一千六百
 余人
 率
 七
 月
 二
 日
 小



二月と経て又大軍を引率を一朝攻めいそ
 直夜の別々息とも継ぐ世を徹盡よ
 ちつと探さる
 ちつと攻め南
 船の
 兵士

▲一万二千の兵士を
 失ひ八千余の隊終を
 生捕はたれはせん

取の敵干との入敷を知らむ此勝利より

▲ホルトンも
 今いそ
 走きせり
 其將
 士二方
 一千六百
 余人
 率
 七
 月
 二
 日
 小



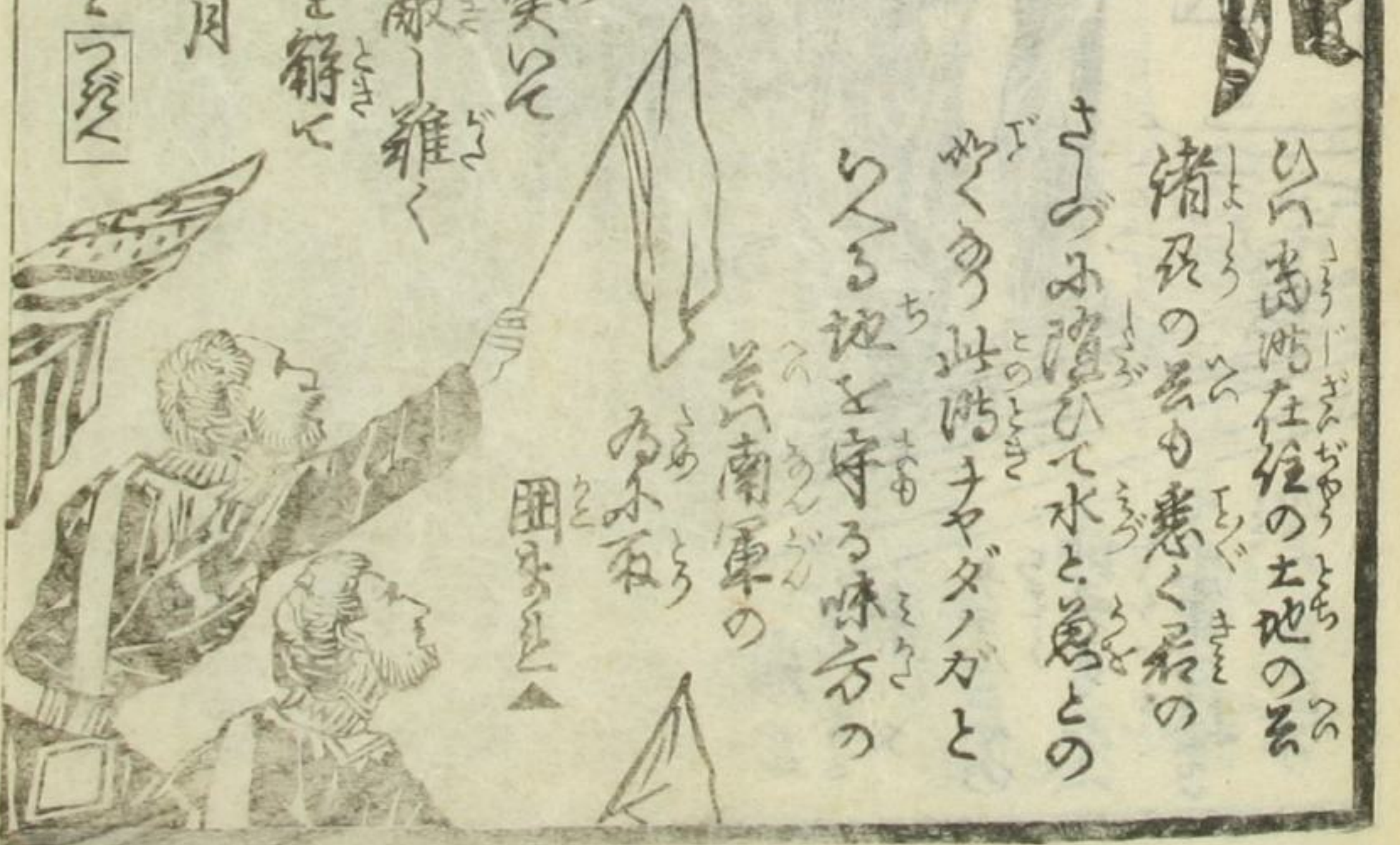


グランド君

つぎ海軍と担ひ
らせらるゝの妨げ
ぬく南軍の跡この
地も絶へ小軍の通
統ささりみるくグランド
都督の功一ふは倭兵の
更ふにシニッビーは
全軍の指令長官
みえりて奉らるゝその
若とちとち小言くか
且へ生さし及御の云成

連日 烈しく攻む

らとせや為城小辺一と闘よりグランド君又
きふ勢つたのをだ全軍を促してチヤダノガと
撥えんと収短とさして出陣せし十月廿七日
ルクアアウトバルレーもく南軍と會戦一戦の
返りつ戦う南軍の群るゆふ小軍勢
云大小砲と雨あらしと打ちつ先鋒をうて突つ
入る勢ひ電光の如くめく南軍と且小敵一難く
いふありと小軍の角へ南軍よりち撥ひ圍を解て
やまくと味方の死地を獲生らせり○初て十月
廿三日グランド君の惣軍再びチヤダノガと



各節式專正

つぎ 南軍も亦ちさうと極めひと足
 退るを速戦二重夜つとと備つとと敷
 とゆふさけしみ女お目のあつとと方ふ
 一層
 烈しく攻らふ敵
 云頗る極想ふ
 中うまとと交とと
 左右と
 突崩
 ま一文
 字小粒
 まうとと想ふとととて



陸軍大都督グラド氏

アルカニーの面おもふて大いふ
 小軍をあげ方南軍の急激の
 大悲
 崩
 殺又
 チヨルジマの
 地方もま
 て小軍の極
 知らととみれ



北軍士官

南軍は方早の内を有兵人二千五百人
 小一と小軍の二方人
 内は傷六千六百十人
 全勝と得るといふも
 攻るとちるの勢いと
 異ふとと小軍大いふ
 隊とと下さるい
 軍の操ひとと
 是より無さとも生捕え千
 隊の上大砲は十門と集ひより旭月の
 界と捕ひまるとと南軍とと小軍とと集ひま

北軍士官
 北軍士官
 北軍士官

グラド君の
 のエと國のおみ
 カとと一とと
 務れと
 ばとととと
 け君とと一國の指揮とと任ととつとと

つき

あるとを察し

八百六十に

十七日陸軍の大

小隊あり

グランド

南の

教習

の

と

ル

と

と



グランドの命を

ツチモンドの

進め

の

を

を

を

を

を

を

リッチモンドの地を

君の

と

ラビタ

の

を

督

ボル

と

の

小

震

震

震

震

震

震

震

震

震

南部大將



勝

バ

強

攻

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口



進むの速くも
法も
適ひ
強く
南軍

諸地は皆奪へば耐銀羅幸若と
経て満身のちろろと登り一過一進
ちろろも攪き合ふふろりり
云漸くも速くもなるふ君ハリー
ガ云解教らバ根枯是て葉凋ミ
敵云云のあつたべと初下
諸將も之と云一ちら戦ふは
初めたるふ此等北將シヨルマン氏ハ
うち續きとる務ちアヌラレ
タチ進モこれと同將
シダル氏ハボルダ
ニヤの傍りふて



の畔りふ達するまでふた
者者六千ふ残り傷つ
者二万六千ふらぎ死生の
らぬ者七千人加ふる小敵のふ
生捕らる者二万余人此もふ
北軍の兵も少くはるこれ
グラド君ハ悠然と神色憂
一夜の戦とるも全務と
得るの結果を思惟し
云と速く進め速やうふ
續めることと策事と
思ひ極ふ際と云と

うち取ケハントル
り氏とれハ

つぎ代りて清原を
督一再びリシエシ

ボルグも進まらふ
此口の南兵はその降した
願おるまるとく務ち
るらうたるシトル氏由
忽ちあらち敷け速陣一
華盛頓舟のつらこが
あよみ兵隊を勤よあり
之より南軍勝利をぬく
大將リ一氏も枯木
一死の嘆盛る



思ひをほし車ちみエールリー
氏と一とまんとんを統率へ
むるみ此事遠くもブランド君の
陣ふ入りあふ小將セリダン氏の
兵を以てまはよるむけの救急の
刻了た戦ひあてやうやくエールリー
氏を退れさせり私に軍へチエー
ムス河の支岸あたりを構へリツチ
モンドの地と圍めど南軍にあそく
るらうと西方防ぎみ心を用ひ且云糧
弾薬を運ぶ如ろの狭道に南地よ
あまが救月敵み圍まつくもつら



つきさまでの困難も是れさう
 初はバグラント君もはやまくと
 志を無き心と心を奪めぬ
 初のみも南の人も戦
 心久しにさうさうと感ひ
 政身も志を休戦のそふ
 傾き法籍とのぞむといども
 君はひまをみそをさしを
 去るく遠征と征せんと大將
 氏その他清將とをさして
 備方の敵地をむらうしめ
 清口と一度も攻めさす



格蘭氏傳 倭文賞二編卷之中

大日本 假名垣魯文和解

グランド君が初上の諸將いよよ君の命令
 小随ひ諸口の敵地を進むらうと南の
 根拠あるカカリナ及びの内於きを勢をひんて
 攻入るゆぞ智勇と勇一南の大將リー氏も
 今い小軍とらち殺らまき軍界つた空しく
 リッチモンドは在る知るへは月二日グランド
 君はセリダン氏と諸將よ十一万の兵とひたあ
 てペテルホルクの地は攻よせを二き二小押結
 り敵のたり備へを打破り用章ふてめく南
 軍と右佐左佐小強さる小南兵足のは度

つきまくる勢と
 うち控備へせ丸一丸
 浪の崩るるわくリツチ
 モンドとさして敗走せり
 二日小軍へ控由進んで
 敵は通り殺隊の騎を
 きて敵の正面は突へるふ
 南軍まもも崩れ
 リンチホルグも退きたる
 あま於てリツチモンド
 の要害をくち入りて
 七万余りの敵も二万に

△さし一由
 その負む
 しくお救
 りとと知れ
 るほど必
 小軍より
 斬る大務
 利よ云
 乳まやく破竹の
 ごとく何れも中



らぞみ打さきま再び
 戦ふもさき形相あり
 此軍小軍踏
 のを負死人走て
 八万二千七百二十人
 ありうと南軍を
 を捕ると六万六
 千六百十二人ふま
 りうとぞ又南軍
 のを負死人は云
 火のる不焼殺

南軍
 ホレガート氏の勝
 共は死物狂ひ一世の
 勇威とみ奮ひて
 ぎたう此格グランド
 南軍ゆも是をさう
 対しと力戦せ此と双方
 敵も万の人の命と失ふ

退付んと
 リンチホル
 グも押退さる
 是敗將リー氏
 のエールリー氏

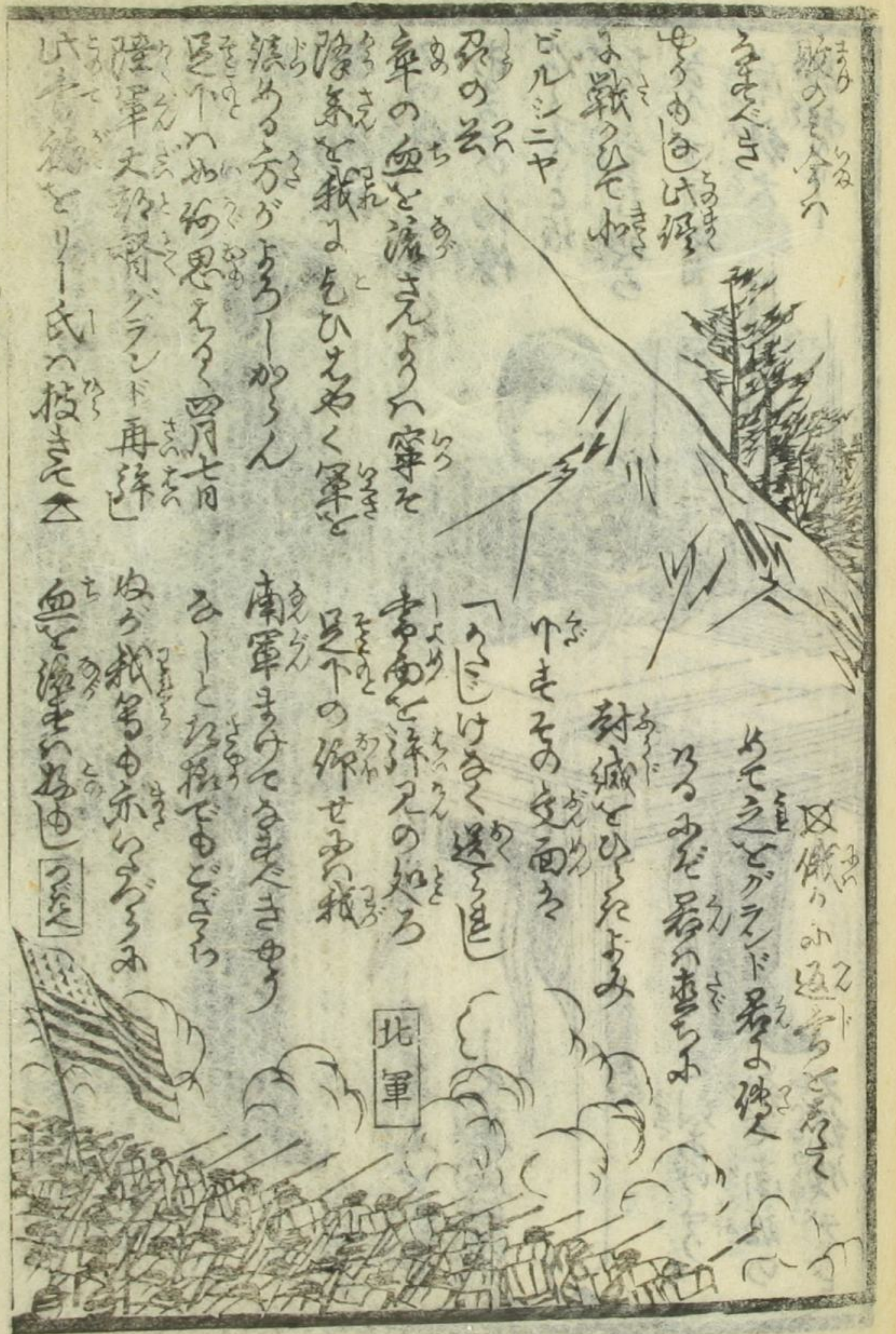


木下尚江氏



北軍
南軍陣營
送るに渡来を
まめける其文小田
のつぞやより打つきたる
戦うひふ是下いふ

北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍



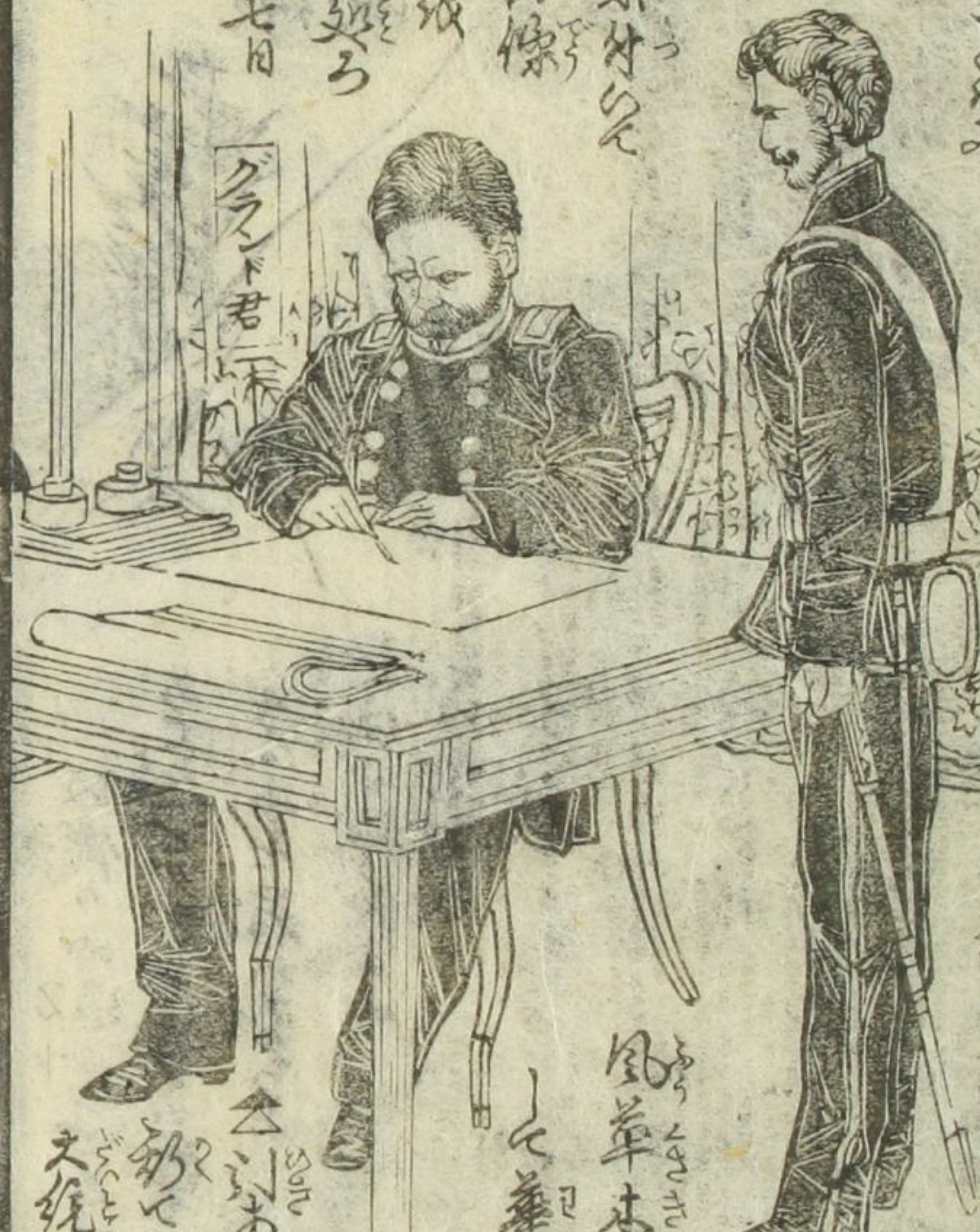
北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍

北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍
北軍
南軍

木下尚江氏

三

つぎにさうぞめぬ
 粗くは下の工ぶ
 ながひは
 糸と糸
 を一は
 その件りふけ
 あまの物係
 かつんと
 切らむむ
 あり五月七日
 南船大
 於督りー



△△
 風草末と
 一と華盛頓
 △△

△△
 初て南船の
 大統領デービ

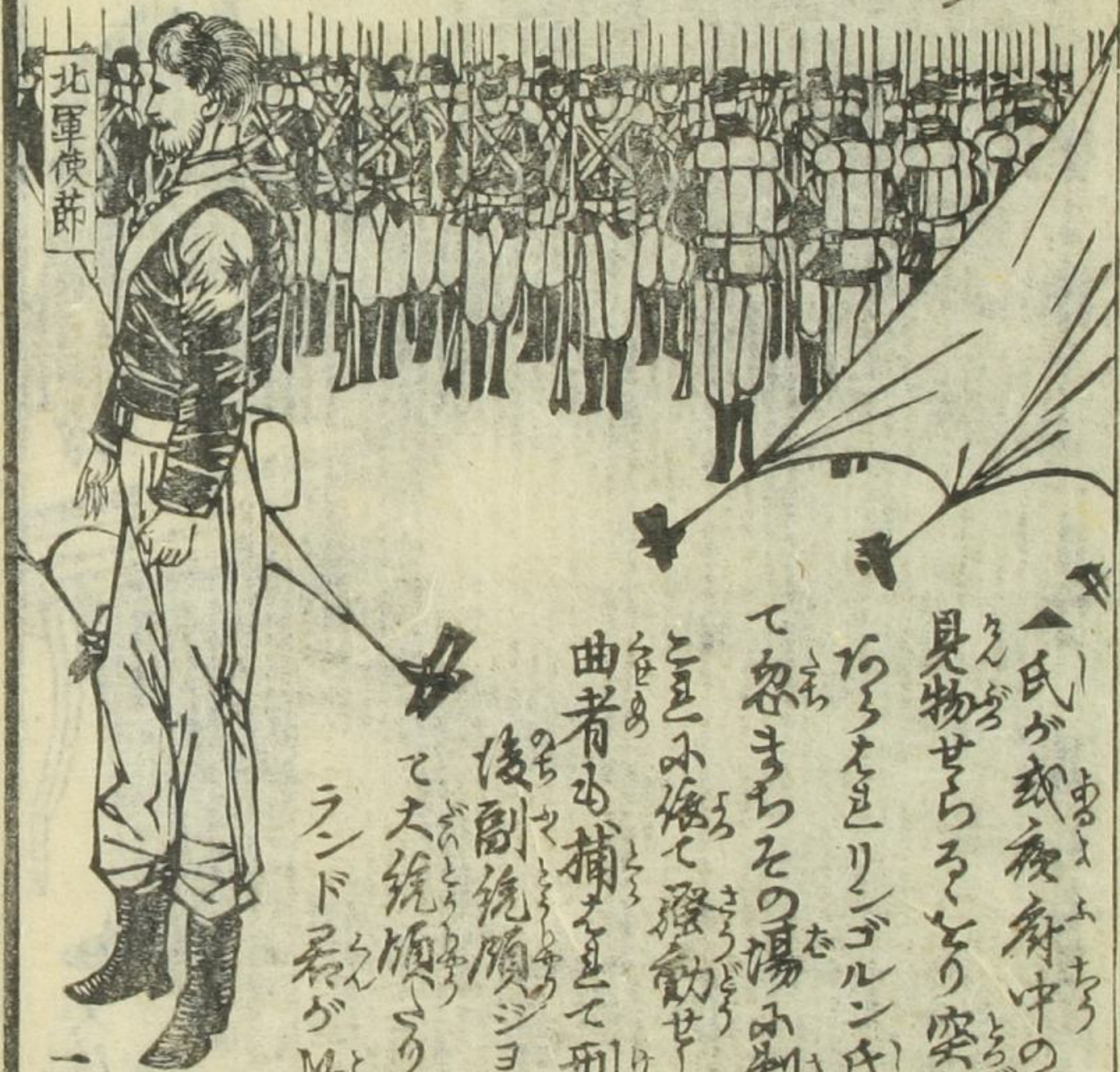
△△
 又々年米の
 結する水軍の
 △△
 △△

再々
 グラン
 ド君ハ
 此書翰と
 終り又もて
 さう送りて南船の方の
 りいそろと伺ひま
 君が勇腕と内よ
 るは氣とあせ
 ツスの本願よ
 ○諸君大將りー氏
 南船諸君争つて



ス係内とあり
 戦九年
 官せよう
 元のて一
 大統領リ
 氏元軍を
 てその力
 一め暮り
 出と解き功
 賞一その無
 由じあー
 思ひとをせり

つき千八百六十
本年大統願リ
ゴルン氏その任
満るといふも
人少きましく此
人まほるを以て
再大統願
の職は位一
全及風波を
やうありしゆ
南に及たの
隊類のりそ



北軍使節
一氏が或夜舟中の演劇
見物せらるるや突然と曲者
ちろと色リシゴルン氏と曲者
て忽ちその場小判殺せり
と云ふ後で強動せりがその
曲者も捕をて刑せり
後副統願シヨソソ代り
て大統願へり松小グ
ランド君が此家の
大功と
困人
一体深く



大統願リシゴ
ルン

南軍大將リ

貴一君の合戦全死ニ
あつた國と云ふもの人
ありと幕のさる者も
なく元陣シヨソソ
み孫増り後千
八百六十七年七月
二十日と云ふ君と
東國陸軍総
統督の職は位
せりそわくけ
は佐せり者へこの國
獨立以來華盛つた

二 碩君の外

ブランド君二人

ありとぞおる衆

衆を身み肩み

のまう有者の

ひらぐ金をおめ

君の住居を新

ふ築建その

功勞むむひけ

君の及解の行回金もその

家の羨羨あるとそふめ

人も多くたりに土地の



カヨシ

カヨシ

カヨシ

カヨシ

カヨシ

カヨシ

カヨシ

カヨシ

カヨシ

カヨシ

名も又を國まを向へけるとぞ

況てブランド君の

芳名未聞

及へらふと

侍とを西洋

諸國よ来る

こころ他洲と

久しきも其徳

をさるる

の



津の罪よ所せんく謀りてをブランド

君ハ申ふ入りさるぐみ之とるぞ

めて南將りて

ゆ万死の地より

救ひ出で命を

助けそ外

死刑よ

所せら

るべき南の

謀殺みかいら

る罪人とも

きよ問はせその

カヨシ

つき 周旋いともぐグランド
 君より出るあり然るふデヨン
 ソンに何あるところ希ふなり
 近頃南米の人と交り
 暑も涼もなれが困
 疑ひのふを生トデヨ
 ンソンひそふ南人
 と親むそいふ
 うられと人を屋
 と先へ後よデヨン
 ソンの穢と剥ぎグレン
 ド君を代らーゆんと



▲さやう
 お動もまれハ
 全列のり

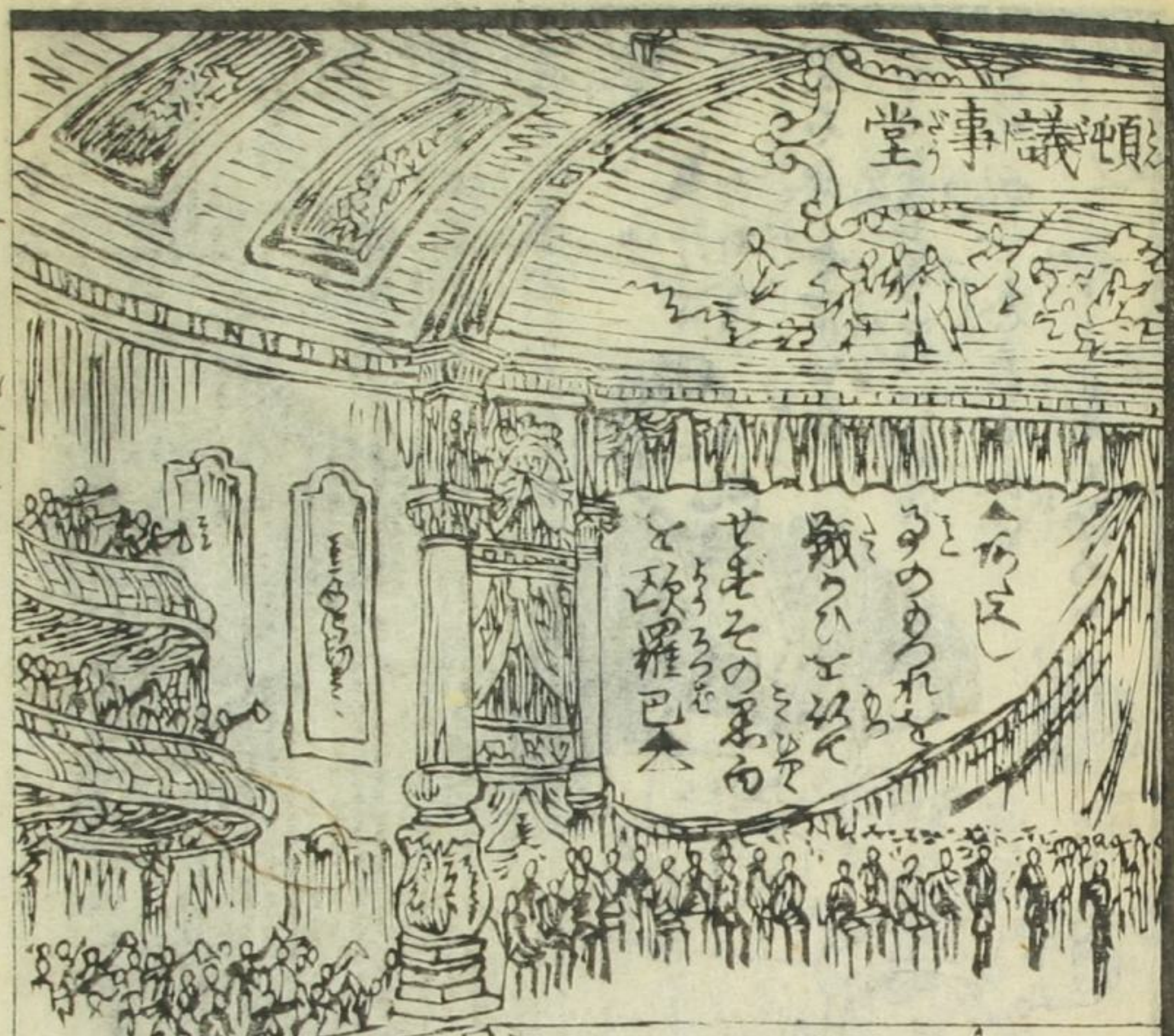
一千八百六十八年入
 れの多救ふよう
 願ふえり
 とつげられ
 羽さる年の
 二月より
 合元四の政
 推とさるよ
 及び免
 有赦の
 殺死

大統領リン
 コルン氏刺
 場は於刺
 殺さる

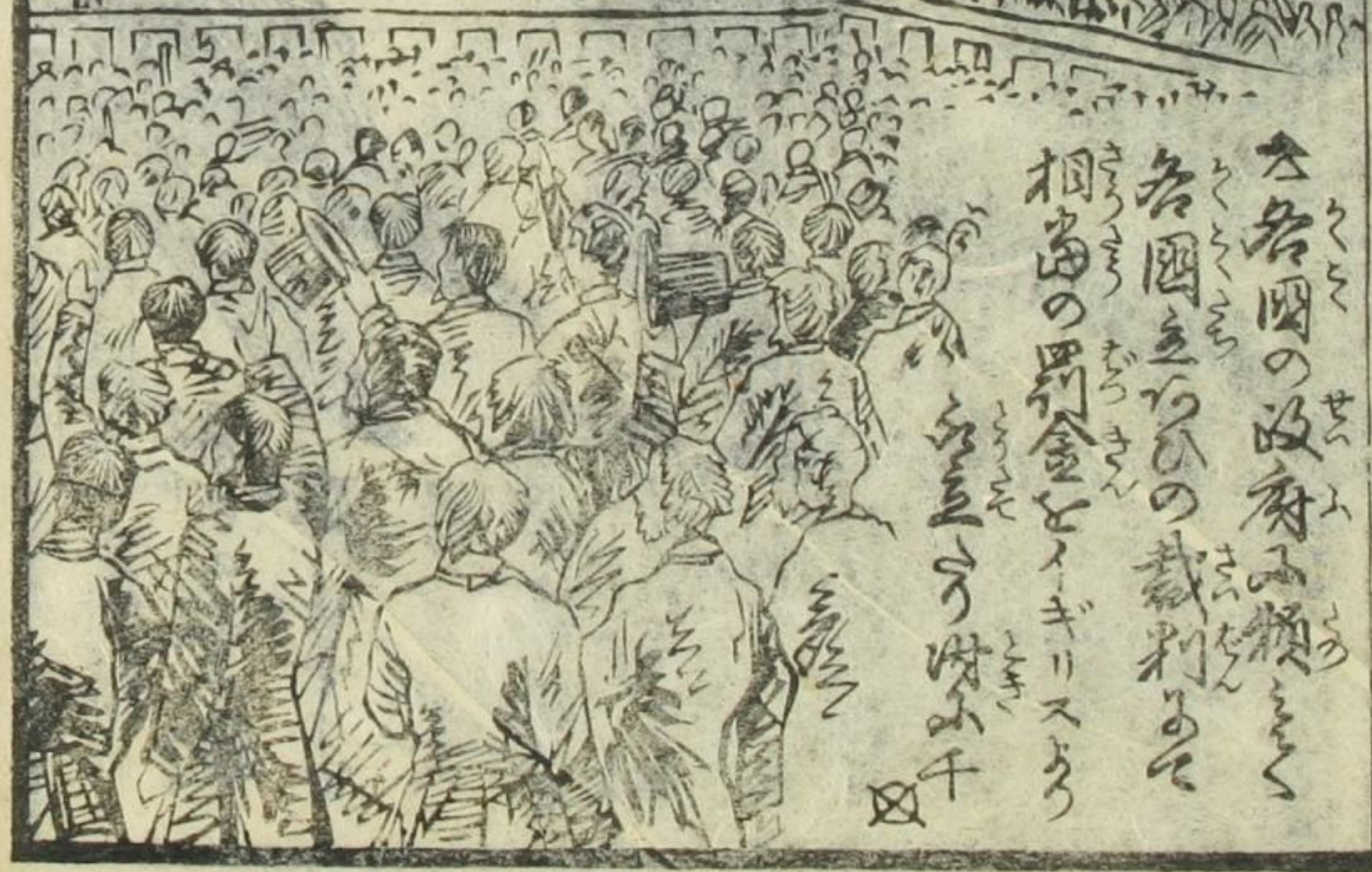
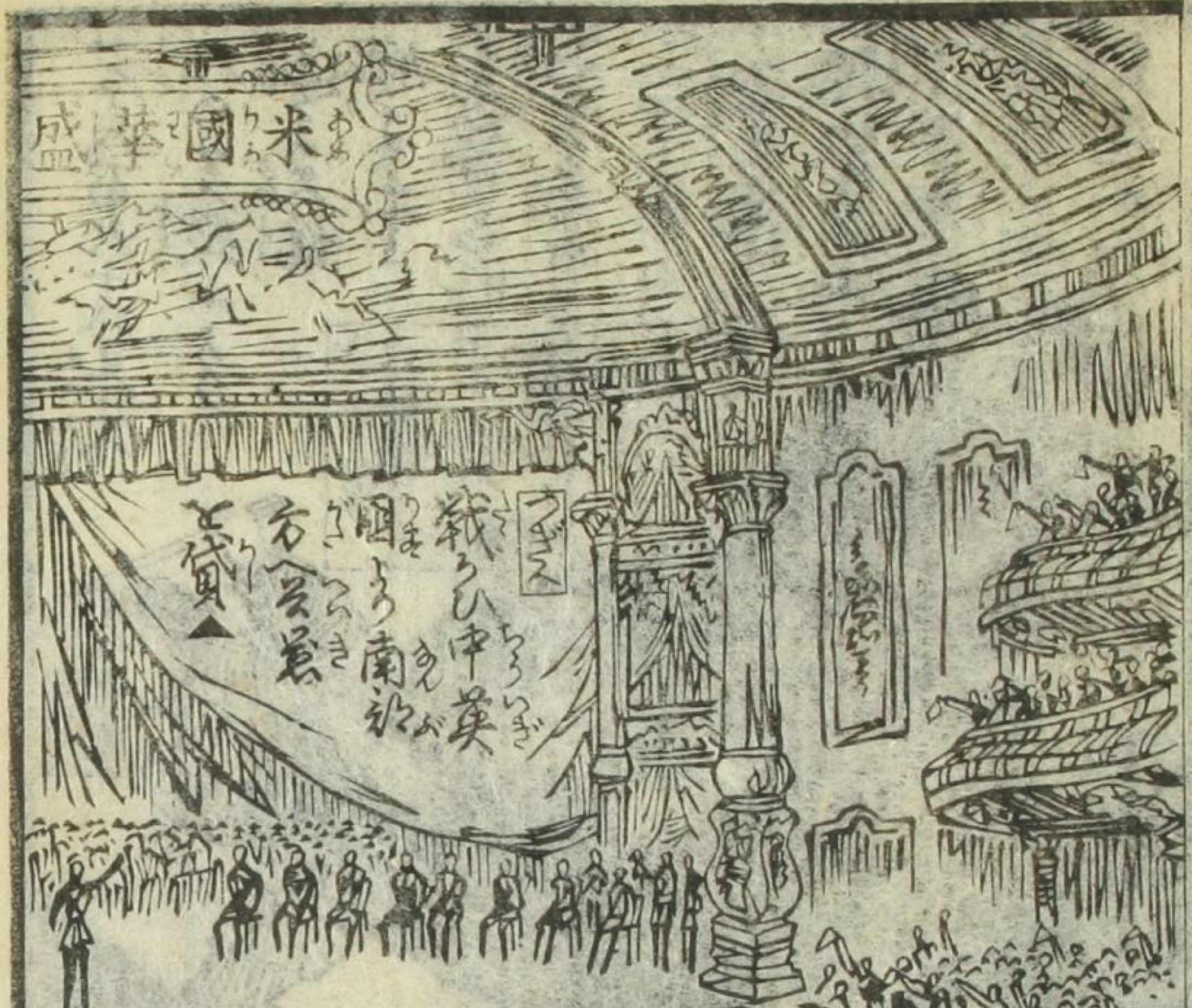


リンコルン氏
 目を破
 改革の上は雅
 徳と生ぜーと
 グランド君ハ
 さあふ心と碎き
 後と人気が取
 法めあら
 仁政を終ま
 みぞ人の屋とまほ
 く加つ積む
 ちみちの波グレン
 君ハ先びのつと

各朝大傳二



七十二年グラド君の任
限満て次の任を授むる
此國向けよう



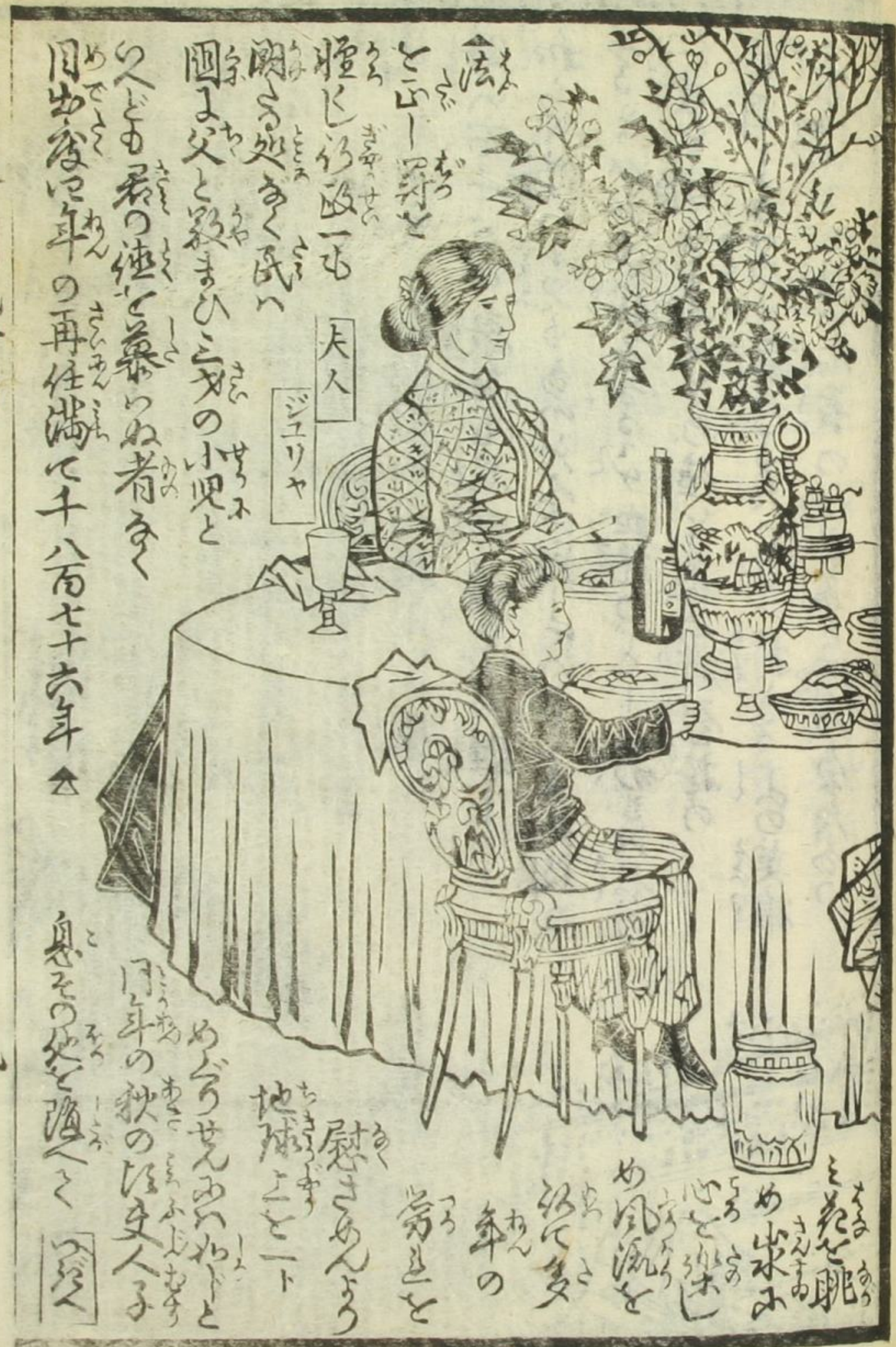
各國の政府は
各國の利益の裁判
相當の罰金をキリス
各五万圓

各朝大傳二



つき入れの
 教多
 再び文鏡願の
 穢ふ能き人
 君が仁義の
 紳よりあつ
 きて今れ全
 明る年、幸甚と奏
 せと幸いも君の治
 めて礼と意をさそ
 替業と勤め

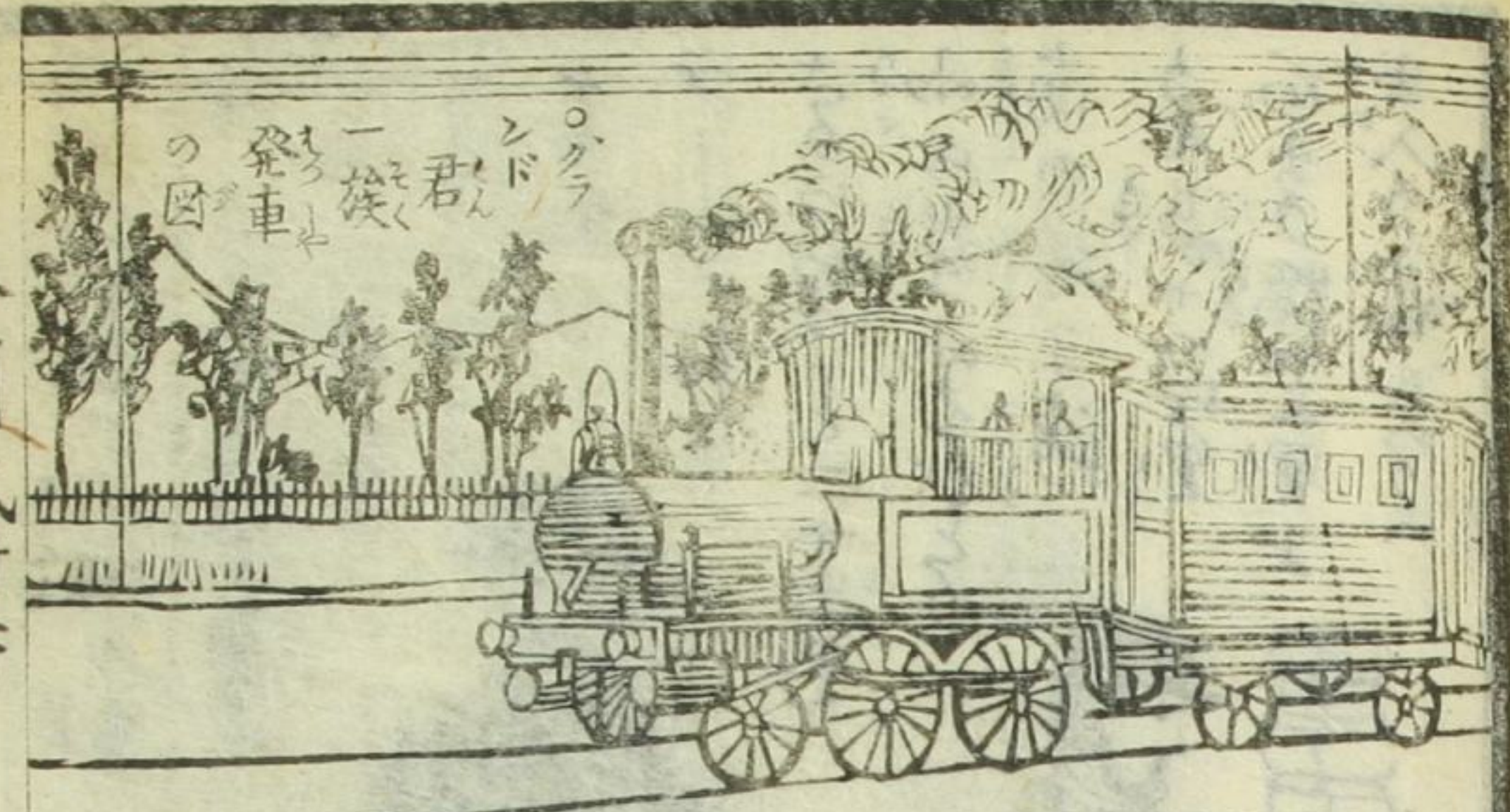
大日本明治
 十二年七月
 大鏡願の穢
 を解き除
 うふる室
 オハヨー
 多モンド
 那ポイント
 プレサン
 ト村
 家
 り月を



法
 といふ
 腫じは
 大人
 ジュリヤ
 圓よ父と殺まひと父の小児と
 りども君の徳と慕ひぬ者き
 月か夜に年の再任満て十八百七十六年

息その地を
 めぐりせん
 月年の秋の
 慰さめん
 地獄と一ト
 年の
 め風流を
 め求み
 め

つぎ 叔母と愛し自國とをなす大後道の
 流車ふらちり先づ改羅巴緒國と云ふと
 交ふ世果漫遊の首途のよりみんをく
 見送り名跡と惜とそくゆ國らしと
 あらふふリンケチとを拭ひ一擲しよりとそ
 史克蘭ド君の人は愛するや戦ひひよ勝む
 時へ百千万の敵とも名怖懺りめ駐
 知らず時へ小見もあつたふ討しといさくも其殺の
 あらまひるく怒るあるふ血流のごと一擲し其君の
 仁義と聞きまきくその徳と慕ふ者懸けの
 名國とも等し君のごとたひ世も掃あるまの英雄
 喜あはれて且仁義の士君と仰つるを

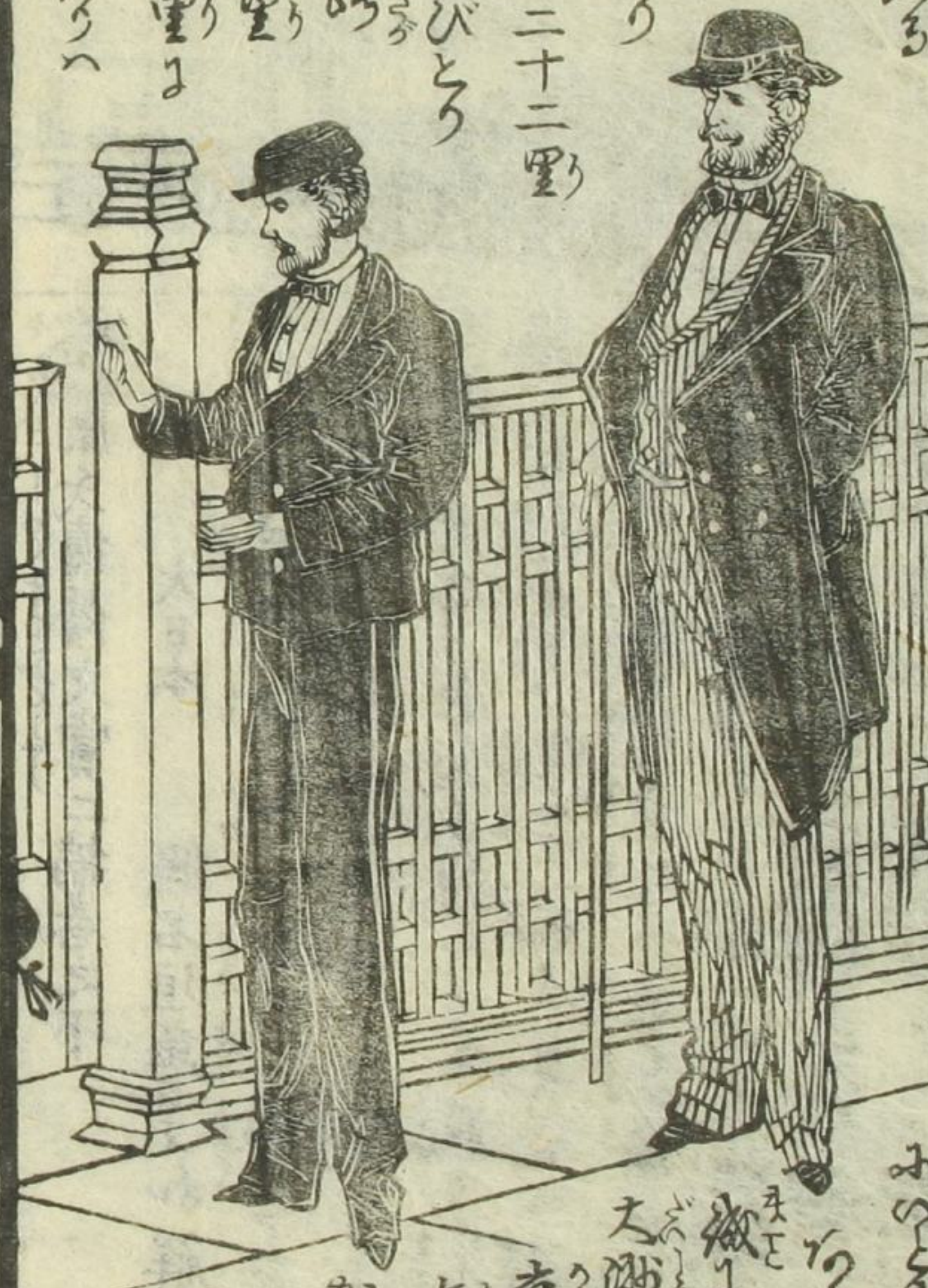


格蘭氏傳倭文賞二編卷之下

大日本 假名垣魚目文和解

格蘭ド君の一泓己よ秋風の吹ころるひ
 大平洋の大鉄道より流車よ、糸トて自國
 と敷し日あつた大西洋とち航り先英
 國にを到着せり此事前より英國の政府
 ふも関へすれバ官吏及び米本國の公使
 領事も出迎之格蘭ド君一泓の縁鏡を執
 有能頭よ取扱け縁鏡を執るとよる
 て女王ウイクトリア陛下ト格蘭ド君文婦
 と迎へ王宮に傍トら親しく謁見ありし
 後尚於府一覽とを屋まきとるをみく

其の地味は此國の系
 城よりその盛況である
 世界より知らるる
 知らるる
 その地方
 テームス河より
 さうのなること二十二里
 水の岸みえびと
 南の岸は海
 くて長サ八里
 向より幅へと里
 出入りへなる



四千餘口此外他國より商法のなる者
 なる者教多ふしそは等なる

此の地味は此國の系
 城よりその盛況である
 世界より知らるる
 知らるる
 その地方
 テームス河より
 さうのなること二十二里
 水の岸みえびと
 南の岸は海
 くて長サ八里
 向より幅へと里
 出入りへなる

別な邸屋を鏡ら
 さを舟外は十
 みの所なり
 人家列ありそ
 一於舟のり
 が如し舟内の人
 格の嵩の如く
 遠くとも
 之階よりみ六階
 至る家なりちま



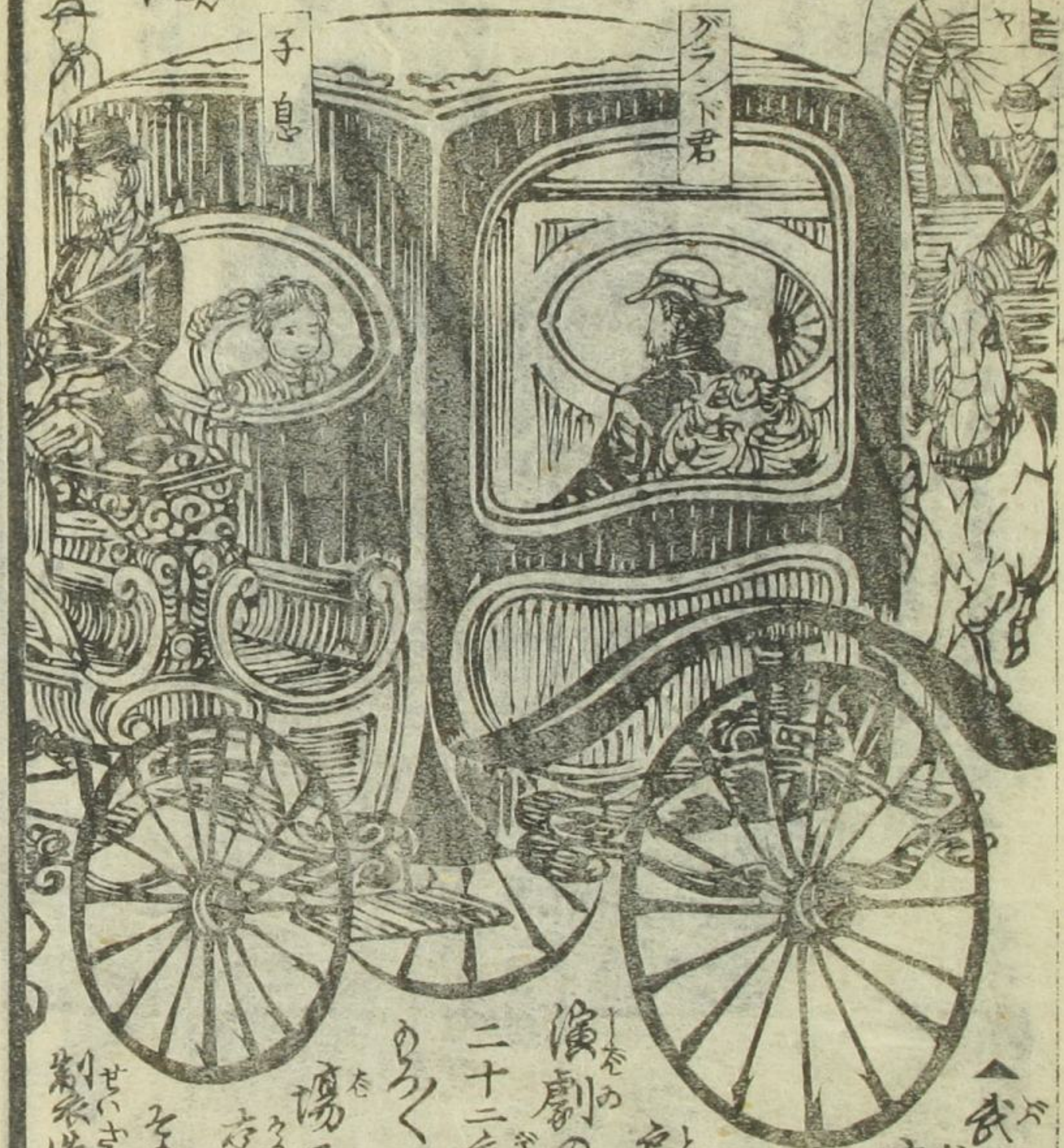
シュリヤ
 く其甚盛の目を刺し
 二十有餘里なりとうや人の教
 なる者教多ふしそは等なる

グランド
 君の一は
 其の地味は此國の系
 城よりその盛況である
 世界より知らるる
 知らるる
 その地方
 テームス河より
 さうのなること二十二里
 水の岸みえびと
 南の岸は海
 くて長サ八里
 向より幅へと里
 出入りへなる

格蘭氏傳三下

二

つぎ 暇 シエリヤ
 とぞ心よ
 威なるもの
 寺の掘る
 べき者その
 敷大い六百
 八十六公学
 校二百六十
 松多校一
 千五百病院
 百六十一



▲武蔵
 庫百
 演劇の敷
 二十二座
 のりくの市
 場二十
 交易
 その外
 割家造の



格蘭氏傳二下

馬七千七
 百余りと
 又後道の
 市仲よ
 馬りて
 馬車入
 屋根の
 上を通ふ
 小役けるあつあつおほいなりよ
 繁栄よとて道邊のそま合あ
 との備あ身とて大初小区別一灰

つき 東船

シターと号け

船とウエストン

ステルと号け南岸

テームス河は流る

地とソウスオークと

号け東へ交易の地よ

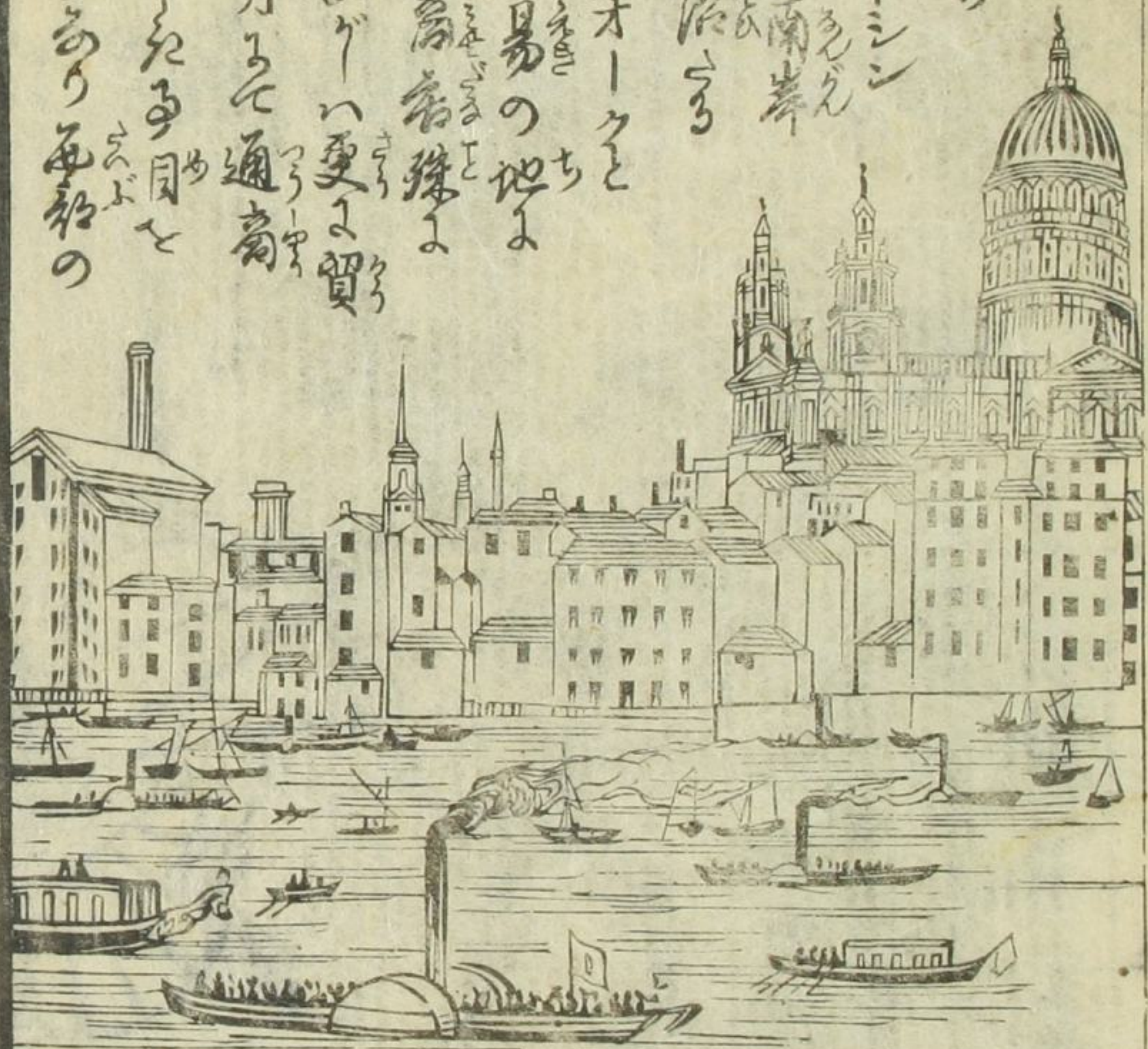
一七のちどろ 高き殊よ

多くその又ひぐり 更に買

易の幸場 所よ通商

局のむびき したる目と

驚きををり あり年船の



▲築造の

めつとも美

森を極

めいせん

トポール

ストロ

寺ありて

この境

内よ建

形も円く

その高サ

方いよん 物柄の修り地

よそ敷 造りたる どの建に

きよび 浴場 後くきよび

よもつた なるを 桑なる園と

修び 室よこの 園の 枿丸長

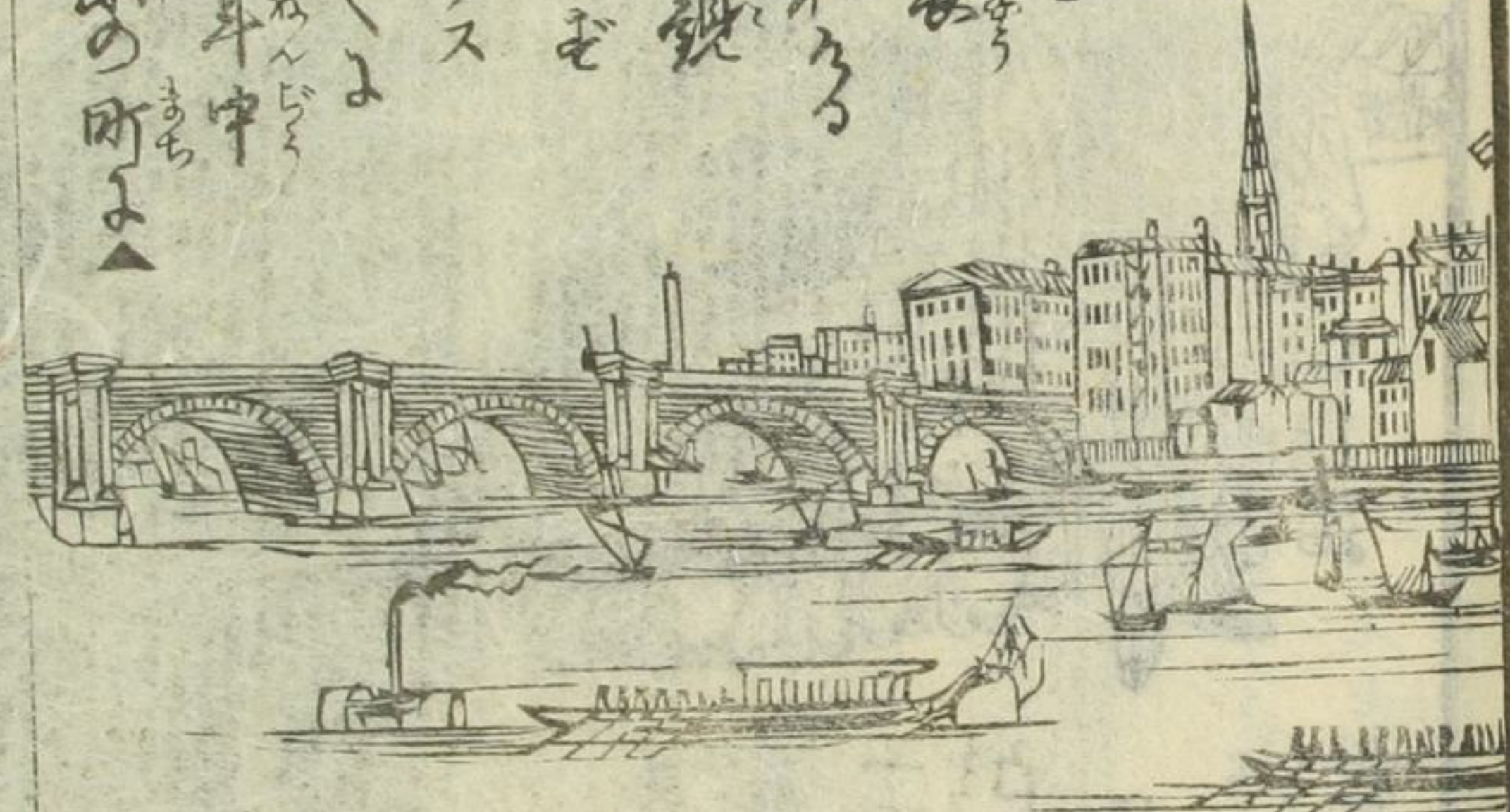
者の ままの 地とを 知られる

南の 岸の 築造 場多し 鐵

匠の 匠の 匠の 匠の 匠の

匠の 匠の 匠の 匠の 匠の

匠の 匠の 匠の 匠の 匠の



六十一 石の

その 田徑り

ハ二十四 石一

尺あり 中央

生つて 終

らと 周ひを

内面 彩色の

魚図 どのり

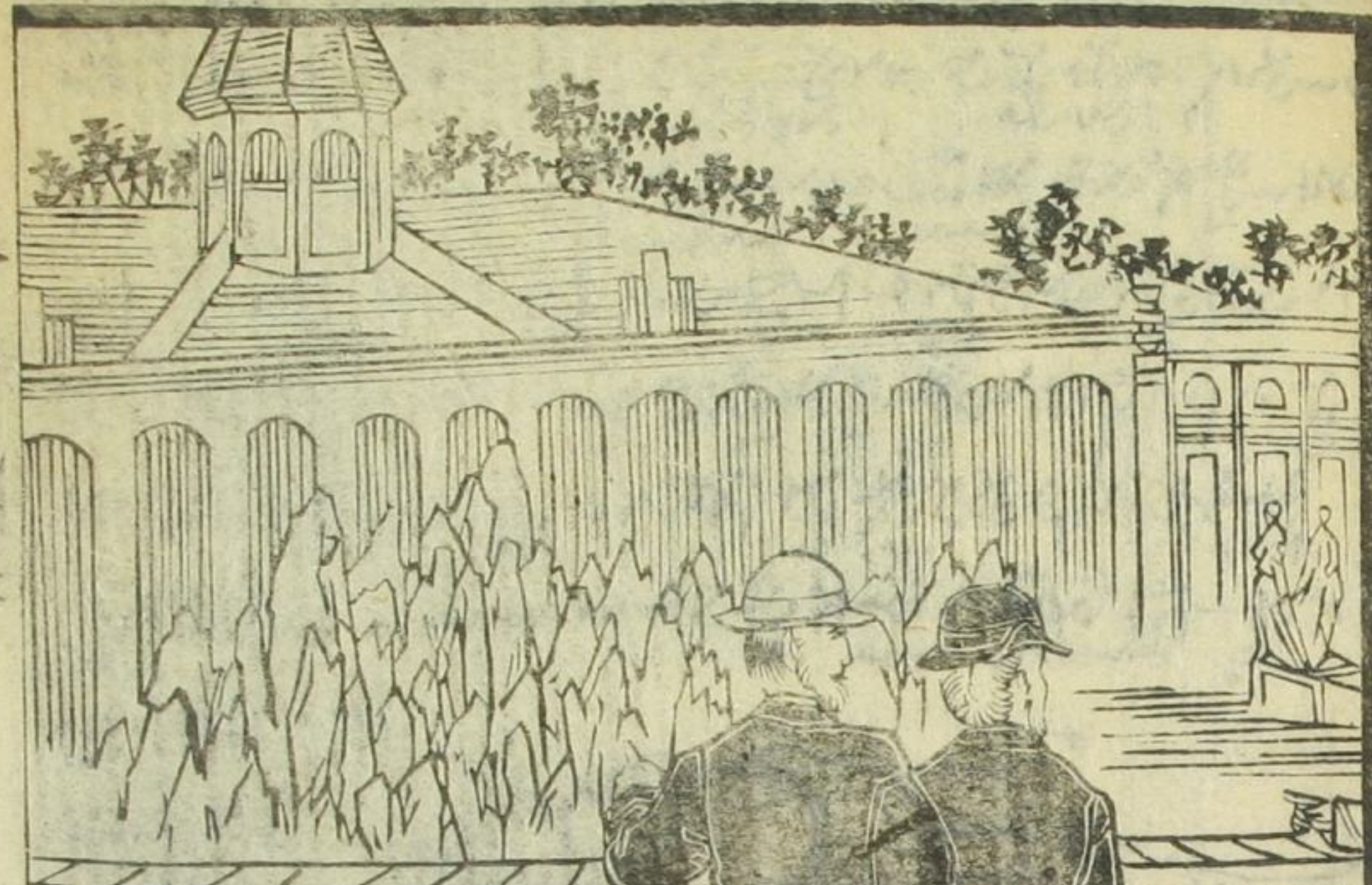
見事 小勝り

まつ 内外 彫刻

の 石像 細工 あり

各篇氏傳二下

四



水晶宮の景

此と弟々乃火の切知子
 築た一ありとぞ東船トウ
 一両ろろて
 維廉王
 の建築せ
 エリサベスとりる此
 國の女王もて是より後ハ
 たる正しき古物ありと
 つふ高塔あの城と武
 倉庫は用ひむろ一の兵為
 代々の王の衣履冠り
 又

此邊きき
 祇動指よ接と
 大まきあつたりのもの
 標し物やうその
 高サ二十何間をう
 その内よ榮螺堂よ
 頼一
 階よ
 とら



頂上
 宝壺と安置を
 あまの二百餘年あ
 高府大よ羅りて
 一万二千金を焼き
 古物ゆきこの死人
 怪我人のあり
 より此がうその
 標し我違てその

水晶宮

水晶宮

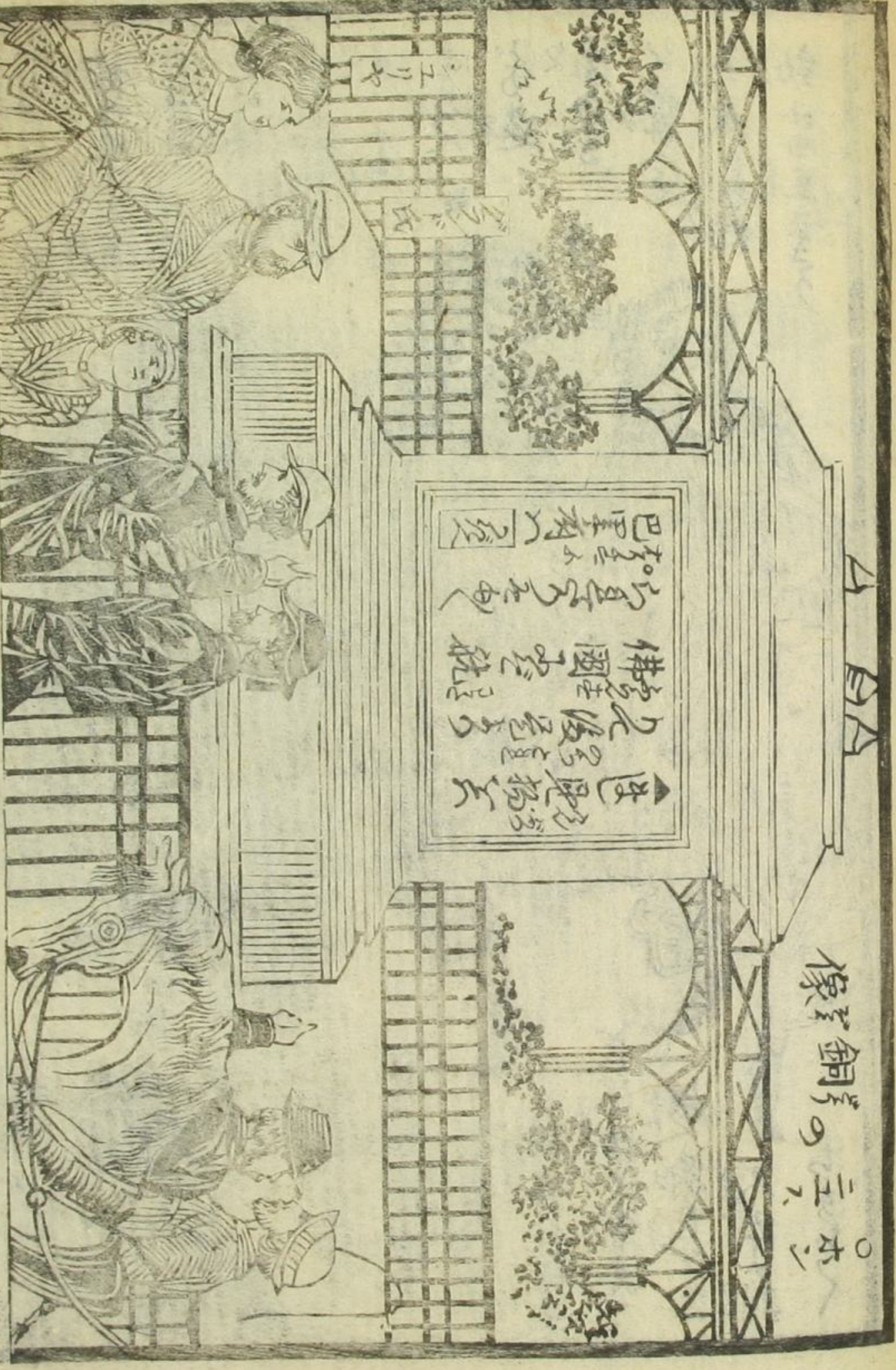
シユリマ

シユリマ

ていごすていごの一場に頼が...
投...
た...
さ...
通...
子...
性...
穴...
の...
を...
あ...
河...
渡...
り...
な...
終...
き...
そ...
ゆ...
そ...
ゆ...
そ...



○ホノ
ニ
銅の像



二傳氏蘭各

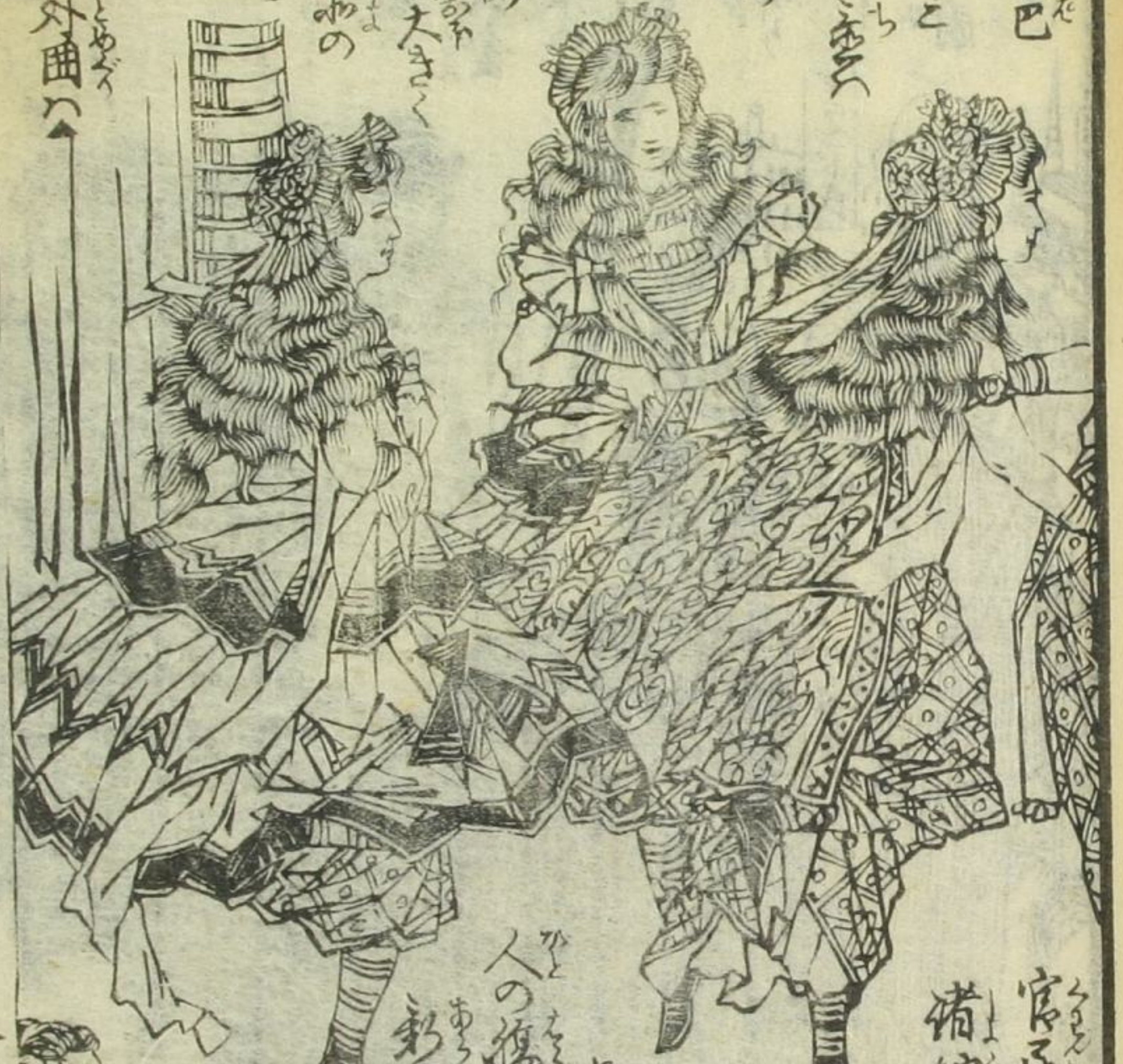
各南式傳二下

つきあふん世國の系
城よそ人の敷
一百あ十万の
その幅のふた
さる袖動のこ
あふまふ
むと久
ぶる遠
家のき
く遊舞々
美探まき袖
勤めゆまます



堅固よかたひ
ら焼ら外
報多の袍堂
と築建て守備よ
修之耐民とこ
大匠よ別
ちまらく

だらき政羅巴
第一のこむと
るりま位ま
セーネ海の
南あふら
の舞よ
誇らりの
方い更よ大き
二十とろ雨の
後世
石稿と
おまはせ外曲ハ



官民の建築役両
諸館まらま
の奇した
巧まを
店株の清源
美舞あつる
人の物とせむ目と
新法中
つて

各南式傳二下

七

りぐじき樹葉の
 まこと散り又
 ルブルの宮殿の
 国王は易十の
 世の所出来あ
 王拿破倫
 第一世の時
 之小遠路を
 生仕業さる
 秋羅巴第一の
 官殿と世糸ま
 府中ノトルダム



ノトルダム
 寺院の
 一世ホレランの墓石
 儀事堂免徳為等々
 見物の中みゆ七月標と
 直ま千二箇一尺頂き小全を
 漢心めさる夫人の像と安座
 まはへ二十一年糸七月の動
 乱と平ぎたる標一ありとぞ
 又フリースワンドムの柱と
 りるのちく奇蹟ある造
 築の中八角ある空地とつた

各頁の目録

チューレー
 の宮殿の
 少死の金
 浪の
 名と鏡也

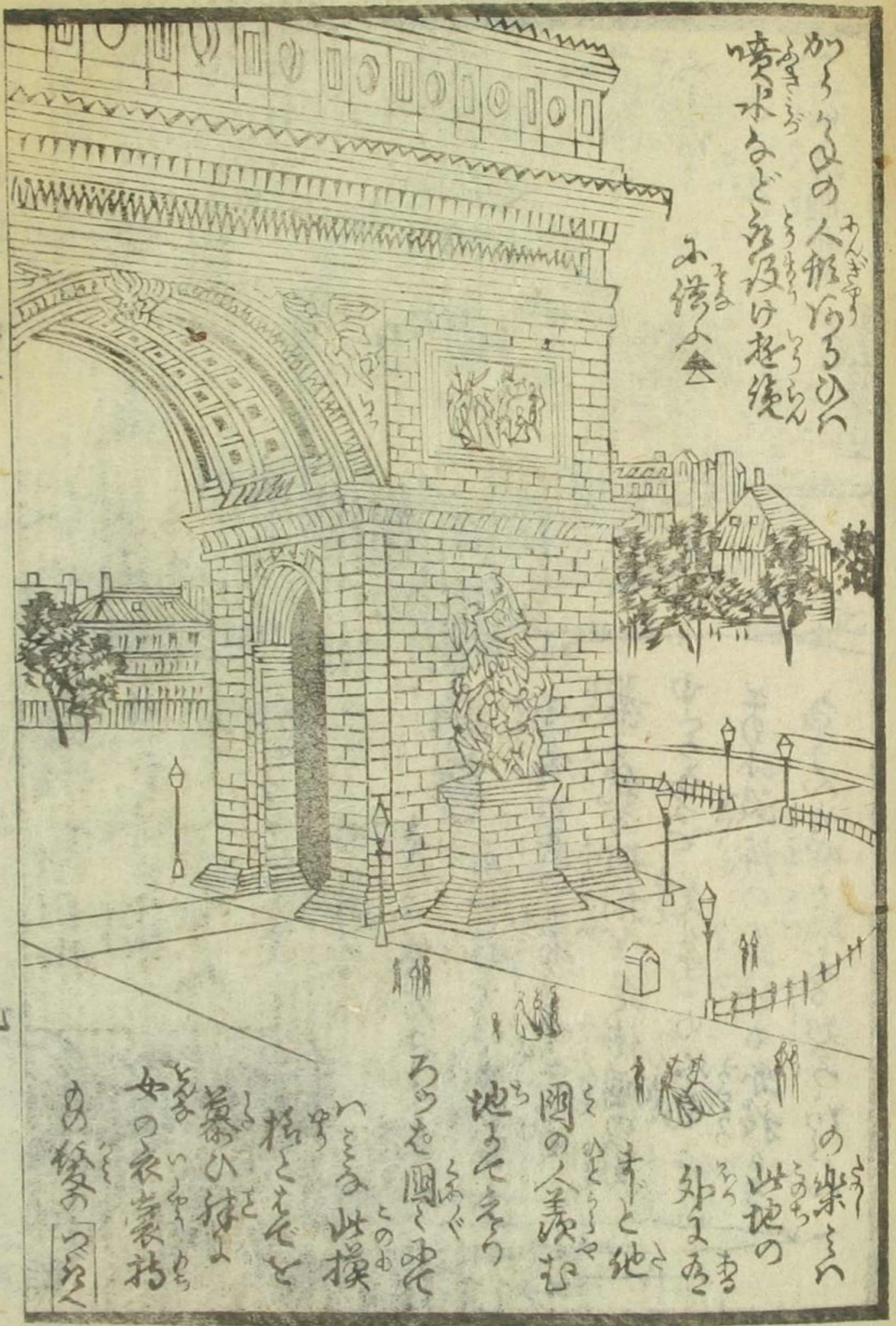


名づくる寺院の
 セーネ
 あり
 君の先
 出国の天統
 願ふ面接の後

村育の目録

一 中 央 又 直 立 二 十 二 三 〇
 旅 の 四 十 二 〇 〇 の 標 一 〇 〇 〇
 ありまそろわと戦争の財
 どりる処ろの大砲を以てこれと
 誘導とのみ頂上よりナポレオン
 一世の像と偽り又セーネ川の
 二流より水を再び一河ある
 ホンニエウの橋と架せぬろふ
 へより弄り世騎馬の銅像
 ありまそろわに此府のまじりまじり
 なる名舗

六 べ だ り の 多 岐 多 岐 多 岐 多 岐 多 岐
 その 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸
 府 府 府 府 府 府 府 府 府 府 府
 ラ ン ス 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中
 野 の 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
 その 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著
 男 女 衣 服 の 著 著 著 著 著 著 著 著 著 著
 ひ 車 馬 の 蹄 蹄 蹄 蹄 蹄 蹄 蹄 蹄 蹄 蹄
 物 物 物 物 物 物 物 物 物 物 物
 軟 軟 軟 軟 軟 軟 軟 軟 軟 軟 軟
 と ち ゃ む の 食 人 人



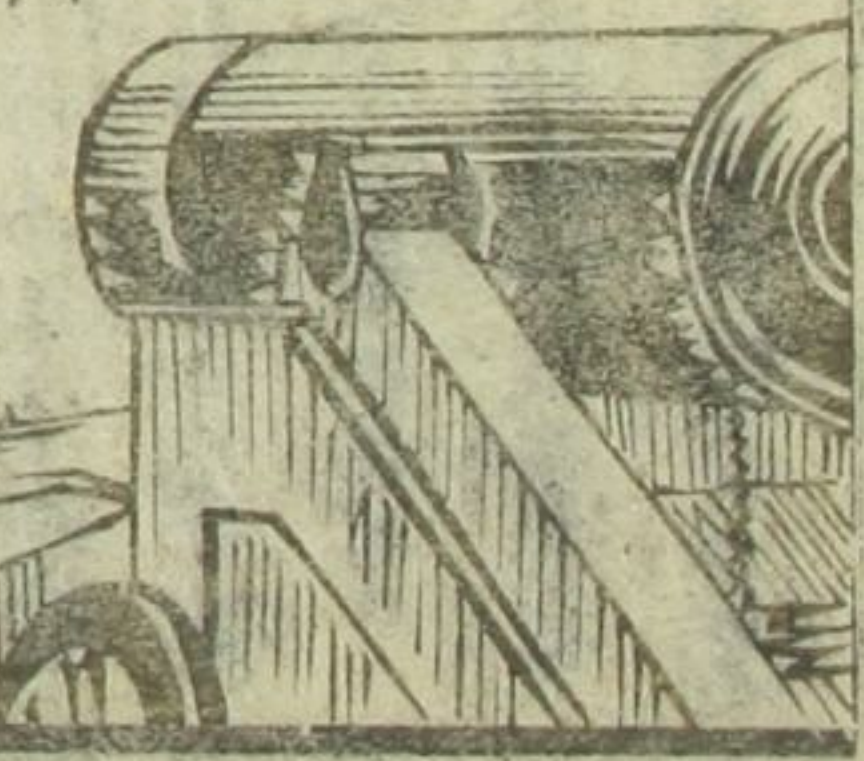
かつらひの人の形
 噴水など及び花後
 小橋の云

の 樂 々 々
 此地の
 外 外 外
 木 木 木
 國 の 人 人 人
 地 地 地
 ろ っ を 國 々 々
 此 此 此
 橋 橋 橋
 慕 慕 慕
 女 の 衣 裳 持
 女 女 女



つぎ 降り帽の
の形は一皮
この形を影形
と表へ出
せし
頭部の
人々の
そのてを
まねく
まねく
まねく

大流の七巴里形
の名を伴ぐハ格由
名こと田舎との名
別あるうてくまると
グランド表の性態ハ
まより變扑ふと元
英と好まはるる
あふの民の素りあるは英
番の統る形相とて佛國の面
中らあると見らるるわん
その小政治の流は亦殺も
あんとて減るる知らわん



官 朝鮮
許 名法
牛肉丸
大前代
中代
小代

官 天泰丸
許 名法
大前代
中代
小代

文 錦繪
地水問屋

出版御用
七月廿日

假名垣魯文
文助

